

情報公開文書

研究の名称	Ex-Press®とトラベクレクトミー術後の視野進行の比較
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学学術研究部医学系 眼科学 眼科 林 篤志
研究の概要	<p>【研究対象者】 富山大学附属病院で難治性緑内障と診断され2017年10月から2022年3月までにEx-Press®もしくはトラベクレクトミーが施行され、術後少なくとも36カ月経過観察できた患者さんを対象とする。</p> <p>【研究の目的・意義】 緑内障の診療の目的は視機能の維持であり、視機能の評価の1つとして視野検査がある。点眼やレーザーでの眼圧下降で視野進行が抑制できますが、それらの治療で眼圧が下がらない場合は緑内障手術加療を行います。 トラベクレクトミーは最も一般的な緑内障濾過手術であり、眼圧を下降させることで緑内障進行を抑制し視野障害を抑制することが知られています。 緑内障濾過手術のよく知られるもう一つの手術法はEx-Press®手術です。ある調査では、Ex-Press 手術はトラベクレクトミーと比較して術後合併症が少ないと報告され、かつ手術成績については同等との報告が多いです。 Ex-Press 手術はレクトミーと比較して眼圧などの手術成績は同等であるが、視野進行率についての報告はあまりありません。したがって今回我々はEx-Press 手術とトラベクレクトミーの術後視野進行率を比較するため後ろ向きの実施いたします。</p> <p>実際の視機能評価の指標である術後視野を調査することで手術後の視野の進行を知ることができます。このことは術後の視機能の予測を術前から可能にする指標となる可能性があります。Ex-Press®とトラベクレクトミーの術後視野を比較検討することで今後同じ手術を受ける患者さんに対してどちらの術式がより視野進行を抑制できるかを説明する根拠となりうります。</p> <p>【研究の方法】 診療録による後ろ向き調査を行い、視力、眼圧、点眼スコア、合併症の有無、手術成功率、術後視野を調査いたします。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2026年3月31日</p> <p>【利益相反の状況】 公開すべき利益相反はありません。</p> <p>【研究結果の公表の方法】 論文掲載を予定しています。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有)	情報の項目：視力、眼圧、点眼スコア、合併症の有無、視野 他機関への情報の提供：無

無)	
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院長 林 篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	学術研究部医学系眼科学 教授 林 篤志
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 眼科医局 076-434-7363</p> <p>FAX 076-434-5037</p> <p>E-mail otsuka@med.u-toyama.ac.jp</p> <p>担当者所属・氏名 学術研究部医学系眼科学 大塚光哉</p> <p>研究対象者等からの相談窓口 電話対応</p>